

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

葛西橋通り－2



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」、「清洲橋通り」、「井ノ頭通り」と歩いてきました。

今回は「葛西橋通り」を歩いています。葛西橋通りは江東区永代通りの永代二丁目交差点を起点に、江戸川区東葛西三丁目の浦安橋（千葉県との境）に至る延長約9kmの道です。写真右上は葛西橋通りの道路名標識（都道10号線）です。途中で道路名は都道475号線から変わりました。前回は起点から南砂四丁目交差点まで歩きました。

今回は南砂四丁目交差点から終点の浦安橋まで歩きます。

おかげさまで「寅さん歩」は今回で500回となります。ご愛読ありがとうございます。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時に撮影したものもあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[南砂四丁目交差点] 江東区南砂四丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 南砂駅

南砂四丁目交差点で明治通りと交差します。葛西橋通りは直進です。



[南砂六丁目交差点] 江東区南砂六丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 南砂駅

南砂七丁目交差点（写真下右）で丸八通り（都道 476 号線）と交差します。
左へ行くと東向島方面、右へ行くと南砂方面です。



道の途中にあった説明板には「砂町は 1932 年（昭和 9 年）東京市に編入される以前には、1659 年（万治 2 年）この付近を開拓した砂村新四郎にちなみ砂村と呼ばれ、砂地の土地は江戸時代初期より新田開発が進められました。

小名木川の開削によって江戸への舟運の道が開かれ栄えました。畑作も盛んで特にこの地で栽培されたネギは砂村ネギと呼ばれ、舟で江戸の町に運ばれました」と記載。砂村は町制施行で砂町になり、現在の地名は北砂、南砂、新砂、東砂になっています。

[葛西橋]

「葛西橋」（写真下左右）は荒川と中川にかかる橋で、荒川が江東区と江戸川区

の境です。1963年（昭和38年）9月竣工、橋長727.4mで架橋当時は都内最長でした。



写真下左は荒川、写真下右は中川、上は高速道路中央環状線が通っています。



[葛西橋東詰交差点] 江戸川区西葛西一丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 西葛西駅

葛西橋東詰交差点（写真下右）で船堀街道（都道308号線）と交差します。左へ行くと船堀方面、右へ行くと湾岸道路方面です。



[中葛西一丁目交差点] 江戸川区中葛西一丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 西葛西駅



中葛西一丁目交差点（写真左）で葛西中央通りと交差します。左へ行くと船堀方面、右へ行くと臨海町方面です。

[長島町交差点] 江戸川区中葛西二丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 葛西駅

長島町交差点（写真下右）で環七通り（都道 318 号線）と交差します。左へ行くと一之江方面、右へ行くと葛西方面です。長島町は旧町名です。



[浦安橋交差点] 江戸川区東葛西三丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 葛西駅

葛西橋通り終点の浦安橋交差点に到着です。突き当りは旧江戸川の堤防です。都道 450 号線で左へ行くと今井方面、右へ行くと南葛西方面です。浦安橋の初代は 1940 年（昭和 15 年）架橋されましたが、老朽化と交通量の増

大で 1978 年（昭和 53 年）現在の橋が建設されました。



写真下が浦安橋交差点です。堤防を上がると中州の妙見島を挟んで旧江戸川が流れています。写真下右の右側が中州の妙見島です。



写真下左右は妙見島先の浦安橋です。浦安橋の中央が東京都と千葉県の境で、浦安市は千葉県となります。



葛西橋通りを起点から終点まで歩きました。多くの橋を渡った感が強いです。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」で2021年（令和3年）9月から歩きました。寅さん歩379 令和3年10月から掲載済です。

今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。連絡を取り合って、どこかの宿でバーチャル宴会をしたいですね。皆様の旅の進度のご連絡をお待ちしています。

2023年8月8日、お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023年8月27日大磯宿（現在の神奈川県那賀郡大磯町）（江戸日本橋から66km）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。



写真左は「大磯虎ケ雨」です。

「曾我兄弟の仇討」の曾我十郎は仇討後に命を落とします。悲しんだ大磯の遊女 虎御前の涙を雨に見立てて梅雨の雨を「虎ケ雨」といい、人物を後ろから描き静謐（せいひつ＝静かで穏やかなこと）な雰囲気を作り出しています。

明治になると大磯には伊藤博文をはじめとする各界名士の邸宅・別荘が並び、その数は150戸にもおよびました。戦後の総理大臣吉田茂の邸宅もありました。また、大磯海岸海水浴場は日本で最も古い西洋風の海水浴場の一つといわれています。地元の大磯港にあがる相模湾の地魚・干物・蒲鉾や手づくりこんにゃくが大磯の名物です。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コー

スが紹介され、各コースシートが印刷できます。
今回の東海道五十三次のコースシートは1マス2 kmを塗りつぶして進みます。
マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。
また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

平野 寅次郎 拝